

手軽に行ける 駅前整骨院 毎年60人超を採用

を目標し

千葉・船橋市 シーエムシー

人はみな、いつまでも元気でいたい、健康でありたいと願っているはずだ。高齢化社会を迎え、人々のこうした健康長寿への希求は一段と強まっている。そうした中、「整骨が予防医学の観点から優れた療法」と、ユニークな展開を進めているのがシーエムシーグループだ。毎年数院ペースで治療院を増やし、積極的な雇用を行っている。

70カ所の治療院を運営

「他にはないモノきつと見つかる！一緒に作ろう！今までにない新しい整骨院」

千葉県船橋市に本部があるシーエムシーのパンフレットにはこう書かれている。同社は東京都と千葉県で、整骨院をはじめ鍼灸院、クレンジング、整体マッサージ院、エステティックサロンなどを展開するグループだ。

現在70カ所の治療院を運営している。中でも力を入れているのが整

骨院運営で、年間110万人の患者が通院しているという。

「ケガをしたり、体調が悪いと感じたら、まず整骨院や治療院を受診してほしい。つまり、傷病のファーストステージとして全国民に整骨院・整骨医学を普及させることが、私どもの使命だと考えているので

す。日本国民の中で整骨院に行ったことがある人はまだ10人中1人ほどなんです」と近藤昌之社長は話し、こう続ける。

「私どもは『街のホットメディカルステーション』をモットーに、地域密着型の事業展開をしておりますが、整骨医学の素晴らしさをもつ

と多くの人に広めていくには、やはり治療を体感していただくのが一番ではないかと考えています。そのためには、整骨院をさまざまな地域で積極的に展開したいんです」

そこで、人材も毎年60〜70人と精力的に採用している。それも、最近では千葉県や東京都だけでなく、北は北海道から南は沖縄という具合に、全国から集めている。

グループ内の多くの人材が柔道整復師などの国家資格保有者だが、資格を持たない人たちも整体マッサージ院で働きながら国家試験を目指すことができる。同社には国家試験合格をサポートする「CMC柔整鍼灸国試験」がある。近藤社長は平成3年に同社を設立して以来、人材教育には最も力を入れてきた。

「資格さえ取ればいいというものではないのです。患者さんの苦痛を取り除くには、確かな技術や深い知識はもちろんのことですが、患者さんの話をよく聞き、人の痛み



本社ビル1階にある「西船中央整骨院」。毎日100人以上の患者が訪れる

を分かって努力することが重要なんです。ですから、知識、技術、マインドの3本柱で人材教育を行っています」

合気道と両立できる仕事を

近藤社主は昭和27年東京生まれの57歳。幼いころは虚弱体質で、小学1、2年生のときは学校へ行くとすぐ熱が出てしまうので、出席日数は数えるほどだったそうだ。しかし、2人の兄の影響で8歳から合気道を始めたところ、虚弱児だったことがうそのように、体が丈夫になった。

以来、大学時代まで合気道一色の生活を送った。大学卒業後、オフィス関連機器メーカーに就職したが、合気道と両立できる仕事を求め、柔道整復師の道を志した。専門学校に通いながら治療院でインターンとして働き、28歳のときに念願の国家資格を取得した。

最初は好きな合気道と両立できそうだと選んだ柔道整復師の仕事だったが、実際にやってみると想像していた以上に奥が深いことを実感。そして、患者さんを治す喜び、患者さんに感謝される喜びを知った近藤社主は57年、30歳のときに高根台中央整骨院を開業した。これがシーエムシーの前身だ。



「人材教育こそ、わが社の命です」と強調する近藤昌之社主

施術は近藤社主が一人で受け持ち、夫人が受付を担当した。初日の患者数はわずか6人だったそうだが、「寝る暇を惜しんで、毎日必死に勉強した」(近藤社主)結果、いつしか「あそこに行けばいろいろと痛みを取ってもらえる」と評判になり、朝9時から夜遅くまで患者さんがひっきりなしに訪れるようになった。「3年目に、目標としていた一日の患者数100人を突破したのですが、そのころになると、2時間、3時間待ちも珍しくなくなり、スタッフを一人増やすことにしたのです」

医療オリリンピックを開催

その人が現在、シーエムシーの社長を務めている山岸功幸氏だ。そして、2人で相談した結果、船橋

市にもう一つ治療院を出すことになった。その治療院も1年後には患者数が一日100人を突破してしまい、3院目を出した。それを機にシーエムシーという会社を設立した。平成3年、近藤社主が40歳のときだ。その後、同社は5年ほどの間に20院以上のグループ院を開くことになるが、ただやみくもに増やしていったわけではない。「院長になれる人材が育ったときに、次の治療院を出すようにしたので、あくまでも、はじめに人材ありきの姿勢を貫きました」と近藤社主は説明する。

とはいうものの、資金繰りには相当苦労したそうで、最初の10年間は自転車操業の状態だった。その後は順調に拡大し、現在は借金もなく運営できるようになったという。

そして、15年には新しい試みも始めた。それは「医療オリリンピックC-1」で、包帯巻きコンテスト、鍼打ちコンテスト、医療知識コンテストの3種目で、それぞれナンバーワンを決めようというものだ。

「整骨や鍼灸の世界には、残念ながら全体でレベルアップする仕組みがありませんでした。これは医学界

全体にいえることですが、学術発表という形でしかお互いのコミュニケーションがとれないのです。そこで、私もがイニシアチブを取る形で、全体のレベルの底上げに貢献したいと考えたのです」

同時に、近藤社主の胸の内には、このようなイベントを主催すること、優秀な人材の確保につながればという思いもあった。

なにしろ、近藤社主は大きな目標を掲げている。それは、24年までに100院、さらに32年までに300院の整骨院などのグループ院を増やし、年間500万人に医療を提供しようというものだ。そのためには当然300人の院長が必要になり、グループ院の開設によって新たな雇用が生まれることとなる。

「将来的には全国展開も視野に入れています。とりあえずは、自分たちの責任の持てるところからグループ院を開設していこうと思っています。無理をしてエリアを広げても、結局マネジメントが追い付きませんからね。今後、組織が大きくなったとしても、『教育が命』という考えに変わりはありません」

近藤社主はこう強調し、これからも積極的な人材の採用を行い、その教育により一層力を入れていく方針だ。